



『ありがとう』の意味

校長 関 勝 志

本校では、「笑顔」と「挨拶」と「感謝」を大切にしています。令和8年度がスタートしてひと月が経ちましたが、学校では笑顔と挨拶があふれています。校長室に向かって「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」と、多くの生徒が声をかけてくれます。廊下を歩いているときも、生徒の方から先に挨拶してくれることが多くなりました。その度にとても幸せな気持ちになり、生徒たちに感謝しています。ありがとう。

人はどんなときに「感謝」を感じるのでしょうか。困っているときに助けてもらったり、気分が落ち込んでいるときに優しく声をかけてもらったり、自分の気持ちに共感してもらったりしたときには、当然のことながら「感謝」を感じることでしょう。しかし、特別なことがなく、普段の生活の中でも、「感謝」を感じる場面はたくさんあると思います。

「感謝」の気持ちは、その人の感性（感じ方や気付き）によって異なります。身の回りの環境や出来事をあたりまえと覚えてしまえば、また自分のことばかり（利己的に）考えていると「感謝」の気持ちは湧いてきません。今の自分があるのはたくさんの人に支えられているからと思うことや、みんなの幸せを大切に（利他的に）考えることによって「感謝」の気持ちが芽生えます。

「感謝」の気持ちは『ありがとう』という言葉で表現されますが、『ありがとう』の語源は何でしょうか。それは「有り難し（ありがたし）」です。元々は仏教の言葉で、「有ることが難しい」です。つまり「当たり前ではない」「めったにない」「奇跡のようなこと」という意味です。私たちが、いま生きていること。住む家があること。眠る時間があること。食べるものがあること。学校に通えること。勉強できること。部活動に汗を流すことができること。友達と笑い合えること。自分のことを心配してくれる人がいること。それらは、実は多くの「有り難し」の上に成り立っているのです。

詩人の相田みつをさんは、

『ありがとうは、魔法の言葉。唱えると、幸せの神様がやってくる。』

と語っています。

さて、どんな魔法があるのでしょうか。

一つは、心をフラットにする魔法です。私たちは日常の中で「もっとこうしてほしい」「なぜ自分だけ」といった不満を抱えがちです。しかし、「ありがとう」の言葉を口にするだけで、そのトゲトゲした心が丸くなり、現状を肯定的に受け入れられるようになります。



もう一つは、相手の「存在」を肯定する魔法です。誰かに向かって「ありがとう」と言うことは、「あなたの存在が私を助け、幸せにしてくれた」と認めることです。言った方は、感謝できる対象がある幸せを感じるし、言われた方は、自分の存在意義を実感することができます。

私たちは「感謝」の気持ちをきちんと伝えているのでしょうか。面と向かって『ありがとう』と言うのは少し照れくさいものです。また、伝えるタイミングを逃してしまうこともあります。でも、「感謝」の気持ちはただ自分の心の中で温めておくのではなく、表現し伝えることが大切です。なぜなら、『感謝』の気持ちは共有（シェア）することでお互いに幸せな気持ちになれるからです。

生活範囲や行動範囲が広がるのに伴って、様々な人たちとの関わりが増えていくこととなります。再び会えるとは限らない出会いもあります。あのとき「感謝」の気持ちをきちんと伝えておけばよかったと後悔することもよくあります。遅くならないうちに、感じたときに「感謝」の気持ちを自然に伝えることが大切です。そして、最も身近な家族へ、素直に「感謝」の気持ちを伝えることも決して忘れてはいけません。

※学校の安全管理について※

本校では、生徒及び教職員の安全確保に万全を期すため、緊急時の対応を確認するとともに、以下のような対応をしています。保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

- ①常時、正門はかんぬき錠で閉門します。ご来校の際はかんぬき錠を外していただき、お帰りの際はかんぬき錠で閉門してください。かんぬき錠は鉄格子の隙間から手を入れて操作することができます。
- ②ご来校の予定がある場合は事前に電話や連絡フォームでご連絡ください。ご来校の際は受付（職員玄関）で受付簿に記入し、名札を着用してください。

「1年生の様子」

学年主任 山本 義和

入学から一か月。新しい環境への戸惑いの中、懸命に一步を踏み出す子どもたちの「頑張ろう」という真っ直ぐな思いは、日々の表情から伝わってきます。特に相手を敬い、心を通わせる「先言後礼」の実践や校舎内に響く元気な挨拶は、四中生として誇りを感じさせる素晴らしい姿が見られます。この小さな積み重ねが、クラスや学年が良くなる原動力になります。一人一人の不安をみんなの安心へ。一人一人の頑張りを笑顔の源に。互いに支えあい、高めあう中で「四中が心のふるさと」と思える温かい居場所を全員で築いていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。

「2年生の様子」

学年主任 真畑 佳奈

4月6日、新たな目標を胸に新年度のスタートをきり、中堅学年としてどう行動していくか考えながら活動できた1か月でした。入学式準備や入学式では、四中の代表として、先輩として、非常に素晴らしい態度で取り組みました。また放課後、部活動を覗くと、仮入部に来た1年生に声をかけたり、練習を教えたりして面倒をみる姿もあり、とても頼もしく感じました。学年全体でお互いに高め合いながら日々の生活を充実したものにしていきたいと思ひます。

「3年生の様子」

学年主任 岩崎 昌之

4月6日、中学校生活最後の1年がスタートしました。昨年度までの経験を基に最高学年としてどう行動すべきかを考えた行動が随所にみられた1か月でした。一人ひとりが目標を明確にし、自覚と責任をもち「背中で語る3年生」として日々の取り組みに頼もしさを感じます。

今年度の学年目標は『きらめき「和」中学校生活の集大成』

今年度の柱は穏やかに落ち着いて物事に取り組む。今までの学びを調和させ、一人ひとりが輝ける集団になる。当たり前前を当たり前前のように取り組み、「穏やかに」「力強く」「最高のきらめき」を放っていきけるよう生徒たちに寄り添い、教員一同全力でサポートしていきます。今年度も保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

■予鈴（8：20）登校■

本校では、予鈴までに全員が正門を通過することを目標としています。かつては、予鈴が鳴ったあとに駆け込んでくる（門遅刻の）生徒が100人近くいましたが、生活委員会の活躍で少しずつ改善されてきました。そして、今年度の生活委員の頑張りには目を見張るものがあります。正門に立つだけでなく、登校が遅い生徒を迎えに出て行き、声をかけ、ときには手を繋いで走って正門に入ってくることもあります。生活委員の声と笑顔が心に届き、登校が早くなったのだと思ひます。その結果、4月の門遅刻の人数は一日平均3人（昨年は9人）でした。生活委員さんに感謝します。ありがとう。



■「学び直し教室」の利用■

本校では、小学校及び中学校で既に学習した算数・数学及び英語の基礎的な内容に不安がある生徒や、基礎学力を定着させたい生徒、学習習慣を身につけたい生徒を対象に「学び直し教室」を開設しています。英検のための学習も併せて行っています。1階カルガモ教室で、午後3時40分～午後4時30分（水曜日は午後2時40分～午後3時30分）に行っています。

また、職員会議や研修会のため部活動が再登校となる時だけ利用することもできます。自宅が遠い生徒が帰宅せずに活動が始まる時間まで学習して待つことができます。今月は5月13日（水）が部活動再登校となっています。ぜひ利用してください。

■生徒の活躍■

<卓球部> 小平市民スポーツ祭 女子団体戦 第三位 Aチーム ※男女全5チームが初戦突破

■5月の主な行事予定■

1日	クラス目標発表会	12日	中央委員会	21日	眼科検診
7日	心臓検診 / 交通安全教室		四中校区あいさつ	22日	英検
8日	内科検診 / 避難訓練	14日	月曜授業	27日	運動会予行
	全国学力調査（英語）	15日	音楽鑑賞教室（2）	29日	運動会準備
11日	全校朝礼 / 安全指導	18日	生徒会朝礼	30日	運動会 / 学校公開
	専門委員会 / 教育実習始	20日	歯科検診		教育実習終